

紙上法話

「今」を生きる

センター布教師 運西寺住職 坂上興道



私の住む所は五百九十四世帯、人口千二百人程の小さな山間の町です。四年前中学校が閉校になり、中学生は隣の中学校へ通うようになりました。そして昨年度には小学校も閉校となり、今年度からは近隣四校が集まり、やはり隣町に新設の小学校としてスタートいたしました。

中学校、小学校と閉校の話が持ち上がると、地域の多くの方は反対をしました。

「学校が無くなれば過疎化が進む。」

「町内で子供達の声が聞こえなくなると寂しい。」

「少なくとも何とかなった方が良いでしょう。」等々、様々な声が聞こえてきました。

しかし、時代の流れとはいえ、閉校・統廃合している学校は私の町だけでなく、全国的に増えていると聞きます。

私は、小学生の子供を持つ一人の親として複雑な気持ちでおりました。

反対する方々の気持ちはよく分かる、しかし子供達の側からすると、友達は沢山いた方が良く、大勢で切磋琢磨できる環境も必要ではないか、そう感じておりました。

運西寺では平成二十四年より、夏休みに「寺子屋くらぶ」、一昨年からは週に一度の習字教室を行っております。いずれも十〜二十人程の子供が集まり、いつでも元気いっぱい姿を見せてくれます。

その様な中で子供達とふれ合う内、私は、学校が無くなり、町の過疎化が進む、また少しずつ町が寂しくなっても、子供達は常に前に進んでいる、と考える様になりました。

私はまだまだ若輩の若僧ですが、それでも年を重ねる毎に、過ぎた事を振り返ったり、先の事ばかりを考える事が増えてきたように感じます。しかし、子供達にあるのは「今」なのです。子供達にとって「今」が全てで、「今」しか無い。子供達と関わることで、本来有るべき姿に気付かせていただいた様に思います。

学校だけでなく、過疎地寺院の問題も聞こえて久しくなっております。勿論当山もその内です。

「このまま過疎化が進み檀家数が減ったら、寺院の維持管理が難しい。」

「布教教化しようにも、まず人がいない」
色々と思いはございます。

しかし、子供達に学ぶなら、やはり「今」しかないのです。私の第一にやるべき事は過去を振り返る事でもなく、先の事ばかり考える事でも無い、「今」を大切に、正しく仏法を生きることだと感じております。

もしかしたら、五十年後、百年後に寺院も存続が難しくなる時代が来るかもしれません。その時までも、正しく仏法が伝わる様、「今」を大切にして生きたいと思えます。